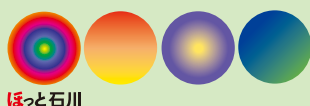


ほっと石川 観光プラン2016

－ 概要版 －



石川 県



「ほっと石川観光プラン2016」 の策定にあたって

1. 新プラン策定の意義

県では平成17年に「新ほっと石川観光プラン」を策定し、平成23年3月に北陸新幹線金沢開業を見据え改定を行い、平成27年の観光入り込み客数2,500万人、うち首都圏誘客500万人を目標に観光誘客の拡大に取り組んできた。

この結果、平成27年の観光入り込み客数は、全体で約2,500万人、うち首都圏では約450万人となると見込んでいる。

北陸新幹線開業によって新たな時代を迎えた石川の観光を、将来にわたって石川の活力を牽引する基幹産業として飛躍・発展させるためには、北陸新幹線敦賀開業などの陸・海・空の交流基盤の整備の進展、東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催など大きな環境変化を見据え、今後10年間の石川の観光を展望した重要な指針が必要となることから「ほっと石川観光プラン2016」を策定する。

2. 計画期間

平成28年度から平成37年度まで ※5年後の平成32年度に中間評価を行う



観光を取り巻く環境の変化

北陸新幹線金沢開業効果

新幹線開業年である平成27年は、首都圏のみならず首都圏以外からの観光客も増加し、観光入り込み客数は、平成27年の目標値である2,500万人を達成する見込みとなっている。

陸・海・空の交通基盤の整備

北陸新幹線敦賀開業、小松空港・のと里山空港の整備と利活用、クルーズ船の寄港の増加、高規格幹線道路等の整備

東京オリンピック・ パラリンピック競技大会の開催

訪日外国人旅行者数2,000万人の目標達成が視野に入ってきたことを踏まえ、国において新たな目標等を検討

旅行ニーズの多様化など

個人旅行の増大、観光客の趣味・趣向の多様化、ICTの発展とその利用拡大など

Ⅲ

観光振興の基本的な考え方

1. 観光振興基本戦略

- 県民生活との調和を図りつつ、観光客の満足度を高め、繰り返し本県を訪れていただくよう石川ファンを拡大
- 東京オリンピック・パラリンピック競技大会開催とその後を見据えた海外誘客の促進
- 次代を担う石川の観光人材の育成に向けた取組を強化

2. 誘客目標（目標年次：平成37年）

全国	3,000万人（平成27年見込：2,500万人）
3大都市圏	1,300万人（平成27年見込：920万人）
首都圏	700万人（平成27年見込：450万人）
外国人宿泊者数	100万人（平成26年実績：29万人）

3. 施策体系

1 新たな魅力づくりと満足度向上による石川ファンの拡大

- (1) 旅行ニーズの多様化に対応した観光魅力の発掘・磨き上げ、旅行商品化の促進
- (2) 石川の優れた文化を活かした誘客の促進
- (3) 観光地の活性化とまちづくりの推進
- (4) MICEや教育旅行誘致の推進

2 石川ファンの拡大を図るためのおもてなしの向上

観光客の声を活かしたおもてなしの向上など

3 石川ならではの魅力の発信

- (1) 本県認知度向上のための効果的な情報発信
- (2) 旅行ニーズの多様化に対応したきめ細かな情報発信

4 広域連携による県域を越えた周遊観光の促進

JRと北陸三県が連携したキャンペーンの実施など

5 海外誘客の促進

- (1) 東京オリンピック・パラリンピック競技大会とその後を見据えた本県の認知度向上
- (2) 東京オリンピック・パラリンピック競技大会を活かした誘客の促進
- (3) 外国人受入環境の充実

6 観光振興を担う人材の育成

次代を担う観光人材の育成など

7 交流基盤の整備と活用

- (1) 陸上交通網の活用
- (2) 航空路線の活用
- (3) クルーズ船の戦略的な誘致
- (4) 二次交通の充実

施策の展開

1. 新たな魅力づくりと満足度向上による石川ファンの拡大

(1) 旅行ニーズの多様化に対応した観光魅力の発掘・磨き上げ、旅行商品化の促進

■観光魅力の発掘・磨き上げ

- ・ 県民生活との調和を図りつつ、地域の新たな観光魅力の発掘と磨き上げの取り組みを強化し、観光地としてのブランド力の向上を図る。
- ・ 観光総合プロデューサー、観光ブランドプロデューサー等の助言を受け、新たな観光魅力の創造に努める。

■体験観光プログラムや周遊型観光の旅行商品化の促進

- ・ 「本物」の旅を求める近年の旅行ニーズを踏まえ、石川ならではの体験観光プログラムの開発・旅行商品化に取り組む。
- ・ 新幹線開業効果を県内全域に波及させるための周遊型観光の旅行商品化を促進する。

(2) 石川の優れた文化を活かした誘客の促進

- ・ 工芸、芸能、祭り、食など、石川の豊かで質の高い「本物」の文化の魅力を県内外に発信するとともに、その魅力を活かしたテーマ性の高い旅行商品の造成を推進するなど、石川の優れた文化を活かした誘客を促進する。

(3) 観光地の活性化とまちづくりの推進

■地域の個性を活かした観光地の活性化

- ・ 地域の観光団体等の意欲的な取り組みを支援するなど、地域の魅力アップと活性化を推進する。
- ・ 新幹線開業効果の県内全域への波及を図るため、能登、加賀、金沢それぞれの地域が一体となった魅力的な観光素材づくりや誘客イベントの開催など、受け地の観光魅力づくりを推進する。

■地域の特徴を活かしたハード・ソフト両面からのまちづくりの推進

- ・ 伝統的な建造物を活かし風情のある街並みを形成するため、景観の保全と修景整備に取り組む。
- ・ 高齢者や障がい者の方々など全ての人たちが安心して観光を満喫できる環境整備に努める。

■金沢城復元整備（第三期以降計画の推進）

- ・ 鼠多門・鼠多門橋の復元整備などを柱とする第三期整備計画に基づき、引き続き県都金沢のシンボル公園として、本物志向で史実性の高い整備を進め、「加賀百万石」のブランドイメージの向上を図る。

(4) MICE や教育旅行誘致の推進

■MICE 誘致の推進

- ・ MICE の開催を支援する助成制度を活用し、年間を通してバランスの取れた計画的なMICE 誘致を図る。
- ・ コンベンション開催に必要な情報提供や相談対応等を担う（公財）金沢コンベンションビューローや市町、民間事業者との連携を強化する。

■アフターコンベンションの充実

- ・ 石川の誇る歴史や伝統文化等を活かした魅力あるアフターコンベンションプランを提案し、参加者のコンベンション終了後の県内観光を促進する。



近江町市場



北陸新幹線



小松空港

■教育旅行の戦略的誘致の推進

- ・ 誘致可能性の高いエリア等にターゲットを絞るとともに、本県の強みを活かした学習プログラムを提案するなど、旅行会社と連携した戦略的な誘致に取り組む。

2. 石川ファンの拡大を図るためのおもてなしの向上

■観光客の声を活かしたおもてなしの向上

- ・ アンケート調査による観光客の声を観光業界全体で共有し、具体的な改善、おもてなしの向上に繋げ、観光客の満足度向上を図る。

■事業者のおもてなし向上

- ・ ホテル、旅館、交通事業者など観光関連企業の従業員等を対象とした研修会を開催し、おもてなし力の向上を図る。

■県民のおもてなし向上

- ・ 県民を対象とした研修会を開催し、日常生活における県民のおもてなしの意識向上を図る。

■金沢駅観光案内所等の機能・サービスの充実

- ・ 観光客のニーズに応じた観光案内機能やサービスを充実するなど利便性の向上に努める。

3. 石川ならではの魅力の発信

(1) 本県認知度向上のための効果的な情報発信

■3大都市圏など重点エリアでの誘客プロモーションやイベントの実施

- ・ 北陸新幹線敦賀開業（県内全線開業）も見据え、J Rをはじめとした交通事業者や大手旅行代理店等と連携した誘客プロモーションやイベント、アンテナショップ等を活用した情報発信を強化する。

■観光PRマスコットキャラクター「ひやくまんさん」の活用

- ・ 観光PRマスコットキャラクター「ひやくまんさん」を活用し、マスメディア、ホームページ、イベント等を通じた情報発信を強化する。

(2) 旅行ニーズの多様化に対応したきめ細かな情報発信

■県観光ホームページ「ほっと石川旅ねっと」の充実

- ・ 観光情報が的確に提供できるよう、県観光ホームページ「ほっと石川旅ねっと」の内容の充実を図る。

■観光客のニーズや嗜好に応じた魅力発信

- ・ 石川ファンの拡大を図るため、観光客のニーズや嗜好に応じた、きめ細かで多様な観光情報を提供する。

■いしかわ観光特使・県人会等による情報発信

- ・ いしかわ観光特使の口コミによる情報発信を推進する。
- ・ 全国各地の県人会等のネットワークを活かした情報発信を推進する。

■SNSなど効果的な媒体を活用した情報発信

- ・ SNSや旅行予約サイトなど、急速に利用が拡大しているICTを効果的に活用した情報発信に取り組む。



金沢港に寄港するクルーズ船



のと里山海道



兼六園

4. 広域連携による県域を越えた周遊観光の促進

■JRと北陸三県が連携したキャンペーンの実施

- ・ JRと北陸三県が連携した北陸エリアでの広域周遊観光を促進する。

■隣県や新幹線沿線県等との連携

- ・ 環白山広域観光推進協議会、加賀越前広域観光推進協議会等での活動を通じて周遊観光を促進する。

5. 海外誘客の促進

(1) 東京オリンピック・パラリンピック競技大会とその後を見据えた本県の認知度向上

■海外に向けた積極的な観光PR活動の展開

- ・ 旅行博覧会等への参加、海外メディアやインターネットを通じた情報発信等により、海外での認知度向上を図る。

■石川のネットワークを活かしたPR

- ・ 海外に在住する石川県観光親善大使や海外県人会、県内留学生等のネットワークを有効に活用した情報発信に取り組む。

■多言語による情報発信ツールの充実

- ・ 多言語によるホームページ・パンフレットや映像コンテンツを活用し、本県の観光魅力を広く海外に発信する。

(2) 東京オリンピック・パラリンピック競技大会を活かした誘客の促進

■北陸新幹線など充実した交通インフラを活用した広域連携による周遊観光の促進

- ・ 北陸新幹線沿線自治体等連携によるJR等の周遊パス（北陸アーチパス等）を活用した新たなゴールデンルートの構築に取り組む。
- ・ 小松空港・のと里山空港を活用した誘客を促進する。
- ・ 県内発着クルーズの前後泊ツアー等の新たな需要の開拓など、陸・海・空の充実した交通インフラを最大限活かした広域周遊観光を促進する。

■外国人旅行者のニーズに応じた戦略的取り組みの推進

- ・ スポーツ・レジャーツアーや教育旅行の誘致など、各国・地域の観光ニーズに応じた誘客の取り組みを推進する。
- ・ 歴史や文化、伝統など石川の強みを活かし、本物志向の個人旅行者や富裕層の誘客に取り組む。

■MICE誘致の推進

- ・ 経済波及効果が大きい海外企業によるインセンティブ旅行・会議の誘致を推進する。

■新規市場の開拓

- ・ 東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を見据え、今後誘客が期待できる新たな市場の開拓に取り組む。

(3) 外国人受入環境の充実

■観光事業者等への普及啓発

- ・ 観光事業者や市町を対象とした外国人旅行者受入環境セミナーを開催し、受入環境の充実を図る。



ボランティアガイドまいどさん



輪島朝市



農業体験

■おもてなしの向上

- ・観光事業者等を対象としたインバウンド研究会の開催、観光案内所の機能充実、通訳ガイド研修の開催等により、おもてなしの向上を図り、石川ファンを拡大する。

■災害時等における避難誘導マニュアルの周知

- ・国が作成した外国人旅行者向け「災害情報提供アプリ」や市町、観光事業者向け「緊急時の初動対応マニュアル」の周知を図る。

6. 観光振興を担う人材の育成

■次代を担う観光人材の育成

- ・本県の観光を将来にわたり石川の活力を牽引する基幹産業として飛躍・発展させるため、産学官の連携により次代の石川の観光産業を担う人材を育成する。

■おもてなし人材の育成・充実（一部再掲）

- ・ホテル、旅館、交通事業者など観光関連企業の従業員等を対象とした研修会を開催し、おもてなし力の向上を図る。
- ・県民を対象とした研修会を開催し、日常生活における県民のおもてなしの意識向上を図る。
- ・観光案内所職員のスキルアップ、観光ボランティアガイドの育成に取り組む。

7. 交流基盤の整備と活用

(1) 陸上交通網の活用

- ・平成34年度末までの金沢・敦賀間の開業が確実に実現するよう整備を促進するとともに、大阪までのフル規格による早期全線整備を促進する。
- ・能越自動車道等の高規格幹線道路の整備を促進する。
- ・「ダブルラダー輝きの美知(みち)」構想を推進する。

(2) 航空路線の活用

- ・小松空港の国内線・国際線の航空ネットワークを活用した人・ものの交流を促進する。
- ・のと里山空港の利用促進と、にぎわい創出による地域拠点としての活性化を図る。

(3) クルーズ船の戦略的な誘致

- ・釜山港等の他港とも連携し、金沢港を発着地とするクルーズ船などの戦略的な誘致を進める。
- ・クルーズ船の受入体制を充実するとともに、金沢港の発着港としての定着に向け、県内及び周辺地域におけるクルーズ需要の喚起を図る。

(4) 二次交通の充実

- ・関係機関と連携した公共交通の利便性向上・利用促進を図るとともに、観光列車（JR七尾線「花嫁のれん」、のと鉄道「のと里山里海号」）を活用した観光誘客に取り組む。
- ・陸・海・空の交流拠点へのアクセス道路の整備、道の駅等の機能の拡充を推進する。



九谷焼体験



能 宝生流



白山白川郷ホワイトロード

① ② ③

④ ⑤ ⑥

⑦ ⑧ ⑨

①のと里山海道

②金沢城

③のと里山空港

④柴山瀧と白山

⑤北陸新幹線

⑥白米千枚田

⑦金沢港に停泊中のクルーズ船

⑧那谷寺

⑨ひゃくまんさん(石川県観光PRマスコットキャラクター)